

Title	目で見るWHO 第87号 表紙・目次等
Author(s)	高井, 康之
Citation	目で見るWHO. 2024, 87, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95299
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

目で見る WHO

2024 冬号 
No.87

Visual Journal of Friends of WHO Japan



公益社団法人

日本WHO協会

CONTENTS

P1	ごあいさつ	高井 康之
P2	巻頭特集	
	WHOと日本のアルコール健康障害対策	木村 充
P6	セミナー・イベント報告	
	1. 日本だけじゃない！迫り来るアジアの高齢化～明日を担う 私たちが、できる国際支援～(jaif-sとの共催フォーラム)	石上 美桜 樂木 宏実
	2. パレスチナ難民にとって命のパスポート、母子手帳 (日本とUNRWAの関係構築70周年イベント)	新田 朝子 石黒 朝香
P14	NGO・団体紹介	
	一般社団法人ウィズアウトボーダー	岩田 雅裕 岩田 宏美
P16	国際保健を学べる大学・大学院	
	1. 順天堂大学国際教養学部／大学院医学研究科	湯浅 資之
	2. 琉球大学医学部保健学科／大学院保健学研究科	小林 潤
P20	留学生日記	
	一番近い外国 韓国より	金子 文恵
P22	WHO職員日記	
	看護の役割の重要性と課題を加盟国と共有し、解決に向けた基盤を構築	安西 恵梨子
P24	WHOニュース 8月／9月／10月	林 正幸 渡部 雄一
P30	関西グローバルヘルス(KGH)の集い	
	オンラインセミナー第7弾 第3回:「戦争と平和」を考える	安田 直史
P32	生駒京子理事追悼記事	中村 安秀
P34	日本WHO協会沿革／WHO憲章	
P36	書籍紹介コーナー	戸田 登美子 福井 沙織
P37	寄付者のご芳名／編集委員のページ／世界保健デー	藤井 まい
P38	入会案内	

ごあいさつ



日本WHO協会 理事
大阪府医師会 会長
高井 康之

新型コロナウイルス感染症が日本で初めて確認されてから間もなく4年が経過いたします。更に追い打ちをかけて物価の高騰により、国民の生活が今もなお脅かされております。当初、我々は未知なるウイルスに対して、どこまで対応できるのか、不安と困惑のなか、何とかここまで辿り着くことができました。昨年の5月からは感染症法上の位置付けも5類に見直され、10月には様々な特例措置も緩和し、政府では今年4月からはコロナ前の日常に戻るよう検討がなされております。

しかし、水面下では変異株であるBA.2.86が流行傾向にあり、爆発的に感染拡大することはないようですが、これまでの免疫をすり抜けて感染する特徴があり、N抗体保有率が低い高齢者は気を抜くと重症化や死亡してしまう恐れがあるため、予断を許さない状況にあります。

これまで我々が経験してきた災害や感染症は「いつ」、「どこで」起こるか予測不能です。「いつ」、「どこで」起きても対応できる準備をしておくことは、どの経験からも痛感したことであり、日本はこれまで有事への備えがあまりなされていなかったことは、我々も真摯に受け止めなければなりません。今回の経験から「急性期」「回復期」「慢性期」といった役割分担の重要性を痛感いたしました。我々医師会が考える「かかりつけ医機能」

は必ずしも一つの医療機関において、かかりつけ医機能を全て持たせるのではなく、それぞれの医療機関が有している機能を発揮しつつ、足りない機能は他の医療機関で補完し合い、面で地域を支えることでもあります。大阪府医師会でも府民の健康に寄与するため、「かかりつけ医の機能強化」に積極的に取り組んでまいります。

日本では保険証さえあれば「いつでも」「どこでも」自由に平等に医療を受けることができますが、世界では適切な医療を受けられない国々は数多く存在し、世界の医療、健康格差は今も大きなひらきとなっております。

人種や民族、社会的地位による格差はあってはならず、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）、持続可能な開発目標（SDGs）目標3でもある「すべての人に健康と福祉を」を達成するためには、一人ひとりが行動することが重要となります。日本WHO協会の取り組みを通して、私たちは今何ができるのか、「目で見えるWHO」をお読みにになり、一人ひとりが一度向き合うきっかけになることを祈念いたしております。

2024年1月